

第4回第3次福岡市教育振興基本計画策定検討委員会 会議録

1 日時

令和7年1月15日（水） 13時10分

2 場所

TKP エルガーラホール 中ホール1

3 出席者

【策定検討委員会】

生田委員、石松委員、板谷委員、猪野委員、河野委員、
呉羽委員、徳永委員、西山委員、波多江委員、福岡委員、藤村委員

【事務局】

中尾総務部長、峯川職員部長、平川教育政策課長、石橋学校企画課長、中野教育相談課長 ほか

4 開会

・事務局あいさつ

5 議題

第3次福岡市教育振興基本計画（原案）について

- ・事務局から資料に基づき説明
- ・以下、委員発言要旨

（委員長）

最初の部分から8ページまでの計画策定の趣旨から成果と課題のところまでで何かあれば意見をお伺いしたい。

ざっと拝見して、初期値や目標値の説明が3ページのところにのみあるように見受けられるが、初期値や目標値はたくさんのところに出てきていて、多分通して読まれる方ばかりではない。飛び飛びで読まれたときにも大丈夫なように、それぞれに入れ込む形にした方が良いのではないかな。

（事務局）

おっしゃるとおり、3ページ以降は、当初、何も説明なく初期値、目標値という言葉を使っていたため、「わかりにくいのではないかな」というご意見いただいて、3ページの朱書きに書いている注釈をつけたところだが、確かにこの1か所しか注釈がない。あまり同じことについて何回も注釈を付けるのもどうかというところもあるので、バランスを見て工夫ができないか検討していきたい。

（委員長）

2次計画を見てから3次計画を読むという人ばかりではないので、そのあたりを少しだけ検討していただければ。

(事務局)
検討する。

(委員)
迷うところだが、1 ページに計画策定の趣旨があって、次の3 ページの方に、国の動向が記載されている。

福岡市の教育を考える上でも、国の動向を押さえながら、どう展開していくのかということで、こう述べられているのだと思うが、趣旨の中に少しそういう方向性があるって、福岡市もこんなふうに考えているというようなニュアンスがある方がもしかするとわかりやすいかなということを思いついた。

(事務局)
1 ページの策定の趣旨の中に少し国の方の動向も踏まえながらみたいな文言があったら良いのではないかというご意見と理解した。どのように入れるか検討したいと思う。

(委員長)
1 ページのところで、計画策定の趣旨のあたりに、「市民の皆様には云々」というような、市民の皆様向けな段落が最後にあってから、「始まります」のほうの流れとしては良いのかなと思ったりした。

「こういう計画を策定します」で終わるように、「市民の皆様にはこれを踏まえて」というメッセージ的な文面が2、3行入るとやわらかいのではないかな。

(事務局)
策定の趣旨とは別に、今の計画でも策定の趣旨の前に、「はじめに」というようなあいさつのようなものはあるので、今回も入れようかと考えている。

ただ、「はじめに」と「策定の趣旨」の内容は結構重複するので、今の市民の方へのメッセージみたいなものを分けて「はじめに」に書くのか、集約して全部統合してしまうのかと言うのは、最終段階に向けて検討したい。

(委員長)
願います。
引き続き、議論する箇所を分けさせていただくと、議論が集約できるかと思っています。基本的な考え方というのが5 ページから15 ページまであるので、ここのあたりで何かご意見等があれば発言をお願いしたい。

(委員)
自ら学ぶ力、他者と協働する力、未来をつくる力の下の枠の中のことだが、「自ら学ぶとは」と定義のように書かれていると思う。ただ、これは定義ではなく、具体的な姿として書いているように思われる。

それぞれが指していることが分かるようにするということは大事だとは思いますが、「とは」という定義のような表現で書いてしまうと、たとえば、ここに書いていることを満たせたら良し、という機械的な理解になってしまう。

それは誤解を生むのではないかなと思ったので、検討すべきではないだろうか。

すべてが同時に起こるようなこともあるのだろうが、そうではない場合もある。全てを満たすべき、という捉えてしまうと、実践現場としても、求める学びの姿としても理にかなわず、苦しいものになってしまうのかなと思う。

したがって、このあたり「とは」として定義を示すのか、具体的な姿の例として示すのか、この四角枠の意味や位置づけを明確にし、揃えて書くことが必要であるように思う。

(事務局)

おっしゃるとおり、四角囲みで書いている部分が、それぞれの力の具体のイメージとしてわかりやすいように書いているところで、確かにここに書いてあることすべてを同時に満たすということはなかなか難しい。

ただどういった表現であれば、「いや、必ずしもすべてを持ってなくてもいい」というふうに伝えることができるか、検討したいと思う。

(委員長)

「自ら学ぶことができるようになる子どもたちは以下のようなことができます」というように少し解説的にする方法もあるのかなと伺いながら思った。

(委員)

「自ら学ぶとは」というよりは、「自ら学ぶ子どもの姿の例」みたいなタイトルにしてしまっても良いのかなと思った。それともうひとつ、ここの中で最も重要なことが1つ抜けているかなと思ったのが、「自律的に」という言葉がどこかに欲しいなど。個別最適な学びといったときに、ここで「指示を受けて行動するだけではなく、主体的に意欲を持って物事に自律的に関わるのが大切で」と。例えばそんな表現が入るとわかりやすいかなと思った。

(委員長)

この資料の中にも「じりつ」の「りつ」が「立つ」と「律する」とあると思うが。

(委員)

律する方。

立つだと教師の指示を与えても立つ方はできてしまう。

セルフコントロールの、自分で律する自律をぜひ入れてほしいと思った。

(事務局)

11 ページの基本方針、その①で、子どもを主体とした学びの推進といったものを掲げている。

そこに、自律的な学びという言葉で内部で検討する中で、ここも今後ちょっとキーワードにしていきたいということで、これは大事なことから思って入れさせていただいた。

(委員)

簡単に今の自律の関係の表現と漢字の使い方についてお話する。

学校教育法とか文部科学省で使っている定型的な表現があって、それによって細

かく漢字が変わってくるから照らし合わせたほうがよい。微細な違いでもそれらと異なっていると、後々になって定型的な表現と福岡市で用いている表現との違いについて問われたり、説明する必要がでてくる。福岡として焦点をあてることに問題はないが、漢字だけの問題ではないから、表現の方はかなり慎重に丁寧に見ていただく必要があると思う。

(委員)

おっしゃるとおり。中教審の委員の立場で、今のご発言に係る情報提供をするが、今は「立つ」では駄目だということで、「律する」方の漢字を使うように統一する方向で動きつつある。そのあたりを踏まえていくということと、国に準拠というよりは福岡市の教育としてどうするのかということを出す方がさらに重要だと思うので、ここでは単なる語感の話ではなくて概念の違い。

指示を受けて自分でできるという、「何分から何分までこれやってね」などの指示を受けなくても、ちゃんと自分で考えてできるという意味だと思うので、このままの漢字で良いかと思う。

(事務局)

我々も入れるにあたっては国の資料等も確認しているところだが、再度概念も含めて、福岡市でやろうとすることと合致するのかということも確認した上で入れさせていただきたい。

(委員長)

そこに関して、文部科学省が示している自立的学習者など、今のところ学習に関わるところで「立つ」の方が使われていて、これもまた変わってくる流れがあるということか。

(委員)

はい。

(委員長)

他に 14 ページまでのところで何かあるか。

例えば学校現場の立場や教員養成の立場、地域社会の代表という中の人達がそれぞれ見られて何か違和感とか逆にこのところはこれで良いのではないかなどあれば。

(委員)

私も「律」というのはあまり使われてこなかった印象がある。いつの中教審答申で示されているのか。

(委員)

今議論の中でそういう話になってきている。

単元内自由進度学習が最近各地で実践されるようになって、あれがループリックを示し、目標を示し、学び方を示して、順番だけ好きにやりなさいということが広がってくる中での反省として、セルフコントロールが大事なんだよねということに

なり、「立つ」だと誤解を招くという話が出てきているから、今のような話になっているかと思う。

(委員)

今までは「律」の使い方として、例えば教師の研修とかいうときにその教師の技術的な学びであったり、大人のイメージ、もしくはぎりぎり大学生ぐらいを対象にした場合に用いる印象を持っている。

(委員)

私も 11 ページの①のところに、前回は「受動的な学びから能動的な学び」という言葉になっていたのが書き換えられていたので、「自律的」という言葉を大事にするのだと思った。学校の現場としては、もし今回これをキーワードにして、職員に自律的な学びを考えていこうと言っていくとしたときには、ぜひこの後の施策の方にも、何かこういう言葉が例えば施策 1 の確かな学力の育成のところとかに出てくると、先生方に説明もしやすいと思った。

(委員長)

後の記述との連動をしっかりとっていくというところで、ご意見をいただいた。

(委員)

2 点発言する。

12 ページの多様な教育ニーズへの対応ということで、不登校、日本語指導を必要とする児童生徒といった具体的な例がある中で、特別な支援を必要とする児童生徒に障がいのある子どもが含まれていると考えられるが、後半具体的にこれらの言葉が出てくる中で、そこを基本方針ではぼやかしていいのかどうか迷うところだと思った。

2 点目は、多分、環境の整備のところとも絡むのだが、ここもこの文言だと、施設的环境だけのコメントのようで、ウェルビーイングを考えた場合に、快適に自分らしく大事にされている感覚のような観点から言うと、ただ建物の話でなく、制度だったり校則だったり、先生の態度みたいなものも環境に入ってくる。そのあたりをどう考えるかは気になるころだと思い、コメントした。

(委員)

12 ページに、教員の資質・意欲の向上というところがあるが、最近教職員になりたいという方が減ってきて、競争率も下がっているという状況で、私は民間だから教職の現場もよくわからないが、残業代がないと聞く。

そういうことは、国が解決に動くものかもしれないが、教職員の待遇の改善というのを、どこかに入れていただいた方がよいのではないかという気がする。

民間企業は時間が全て管理されていて、パソコンを立ち上げて落とした段階で、その時間までが勤務時間という形になり、それに基づいた残業代などを適正につけないと、労基署から問題にされたりする。そんな状況であるから、教職員について待遇の改善あたりを入れていただくと、もう少し教職員を希望する方が増えてくるのかなという気がした。

(事務局)

教職員の関係で言うと、おっしゃるとおり残業代があるというより手当で支給されているのだが、新聞報道にもあるとおり、何十年ぶりかで引き上げがある。来年度上がるのは少額だが、数年かけて上げていこうということになっている。これは法律で決まっている制度であり、なかなか自治体単独で、というのは難しいと思う。

ただ、金銭面の処遇だけでなく、やはり働きがいや働きやすさについては、各論の方で触れていきたいと思っている。

(委員長)

14 ページの指標の中で、「あなたは日々の仕事に喜びや楽しみを感じていますか」といった設問の検討をするにあたっては、おそらく経験年数によって回答に違いが出てくるから、そう考えると若年層教員または教員になってから例えば5年未満の方がどれくらいやりがいを感じているかなどを検討の段階では見た方が良いのではないだろうか。ここに記載するかということその必要は必ずしもないかとは思いますが、若い、教員志望の大学院生などと話していても、非常に意識が違うなというようなことはひしひしと感じており、現場の先生方もそれは痛感されているのではないかというふうに思うので、そこは、考えていく視点としては必要なかなというふうに思った。

(事務局)

この調査は無記名の調査であるため、属性的なものを聞いているかどうか確認の上、検討していきたい。

(委員長)

この視点を持って今後のこの3次の検討についても進めていくということなのだろうから、経験年数ごとでまた見ていく方が良いのではないか。40代50代は非常にやりがいを感じて仕事しているが、スタートして2、3年の方がもう疲弊しているなどという現状がもしあれば、平均を取ってしまうと丸まってしまうので、そこは分けて分析する必要があるのかなと思う。

(委員)

教員の資質・意欲の向上や待遇という話題が出たかと思う。もちろん国の方で今議論がされたり、いろいろ話題にもなっているかと思うが、勤務環境や職務環境といった形の表現でも良いのかなというふうに思っている。その一つとしてDXも含まれてくるだろう。福岡市は特に今プレハブが多かったりして、子どもたちの学習にもなかなか辛いところがあると思うが、先生方もやはりプレハブで授業というのはなかなか大変だと思う。

総合的に先生たちが働きやすい環境であるというような勤務環境の改善として書いておくと、1つはその待遇というものも含まれるであろうし、環境を良くするといった側面からやりがいといったものを高めていくような「気持ちを削がない」という点も重要だと思う。例えば勤務環境・職務環境…適切な言葉があまりわからないが、今後そういったものに対応していくだろうから、そうした表現が入っているのか入っていないのかでは、やっていくことの価値とか成果みたいなものも影響を受けると思うので、1つ提案をしておきたい。

(委員長)

この点も合わせて、勤務環境という表現をキーワードとして出していただいたのであわせてご検討いただければ。

10 ページのところで、「①自ら学ぶ力」のところに戻ってしまいが、「見通しを立て」というのが2段落目に出てくる。見通しとか自分で計画を立てていく力がつくというのは大切なのかなと思うので、「見通しや計画を立て」といった表現もご検討いただきたい。

自分で自分の学びの計画を立てることができるようになっていくと、多分受験の準備や大人になってからのいろんな学びの準備など、必要なものに対して備えていける力になろうかと思うので、そうしたことも、例えば定期考査に向けた計画を立てるとか、実際の学校でなさっているのを、それを言葉にもしていただくと良いかなというふうに思った。自分の教育計画を立てるといようなイメージ。

他に特にこの14 ページまでのところでないようであれば、次の議論に進んでいくが、まず施策1 確かな学力の育成のところでは何かご意見があれば。

(委員)

10 ページの「自ら学ぶ力」と関連してくるのだが、「国語・算数(数学)の授業が内容がよくわかるか」が指標になっていることに関して、小中高を考えているこの施策の中で、これだけが「内容がわかるか」という仕様になるところが気になる。どこにも探究という言葉が入っていない。

全国校長会や他都市などの情報を見ると、探究学習に中学校高校で力を入れていて、施策として大きく出されているところもたくさんある。その中で、ここに探究がないと、この数年間でやるべきことが出てきていないのではないかというのが一番の思い。当然中学校でも、探究という言葉で、10 ページ11 ページに戻ると「未来をつくる力」のところで、例えば、ポツの2 番目、「前向きに受け止めている」で止まっている。

例えば、やはり、アウトプットを高校も中学校も始めているので、まずしっかり高校だったら地域社会の中、福岡市の中や世界といった大きな視点で、アウトプットしていくと。中学校で学んだことを身近なところとか、地域社会、自分の地域にどう活かすとか、そんなところに繋がっていくというようなことがぜひ、この中に入ってほしいなと思っている。

元にもどると、先ほどアウトカムとかアウトプットというお話があったが、今までは「わかるか」が基準だったかもしれないが、そうすると、中も高も教えるわかるの関係になってしまう。

今からは、学びを支援するという立場なので、それぞれの子どもが何か学んだ、先ほど言ったように自分で学んで計画をして、そしてどんなふうにアウトプットしていくとか、課題設定とか、そういうところまで小学校から始めないといけないのではないかと思っている。

(事務局)

探究的な部分を入れたら良いというのは指標の部分か表現など文章の方か。

(委員)

主に文章の表現。

(事務局)

いただいたご意見も踏まえ、検討する。

(委員)

指標については以前事務局から、今まで使った指標も関係しているからという話をいただいた。

それでいくとずっと変わらない。新しく何か考えないと新しい福岡にならない。

(委員)

14 ページの②デジタルトランスフォーメーションの下から 3 段落目に、「デジタルの活用とともに対面による授業や～」と記載されており、授業改善の中でこれまで以上に対面も体験活動も大事だということに触れられていて、なるほどと思っていた。

一方で、施策 1 に記載されている教育データの活用は、日々の授業改善等とはあまりリンクしていないように見受けられる。

これだとなんとなく、市のデータや研究ベースの教育データ活用というふうに見えてしまうが、一方で D X の方では、日々の授業改善でデジタル化というのがあって、そのデジタルという言葉に授業改善に資する部分と、施策に資する部分というのが混在しているように感じる。14 ページの D X のところでも、デジタル活用の部分と教育データの利活用が入っているとは思いますが、少し混在しているように思った。つまり、主な取組みの授業改善の部分は 2 行目までで、あとは教育データの話になっている。日々の授業改善にまでは踏み込まない方が良いのだろうか。

(委員)

おっしゃるとおり、日々の授業改善に踏み込むのが王道だと思う。

他自治体の教育 D X の助言もしているが、子どもたちの反応などをリアルタイム分析して、その時間の中でも授業改善するし、単元の中でここが少し弱かったよね、という分析をして次の単元で改善することにも活かしているし、様々な授業改善という部分で、いわゆる知識理解だけでなく、学び方の支援とかも含めた、教師側の振り返りと、子ども自身が自分でも振り返ることにも使っている。

ここの「学校の I C T 環境整備、教育データ活用」が一見目的に見えてしまうから、今みたいな話になると思うので、「(I C T を) 活用した授業改善」とか、「児童生徒支援」みたいな言い方をすれば良いのかなと思って今お聞きしていた。

(委員)

そうすると、14 ページの「なお、デジタルの活用とともに」というのは、いわゆる I C T 機器を活用した授業ということか。

(委員)

I C T 機器を活用しないものも含めて、全部教育データを分析するという感じに

なる。

(委員)

その時にこのデジタルの活用という表現は少し自分のイメージとは異なってくるように感じる。

(委員)

おそらくここは、対面や体験活動との対比でデジタルと書かれたのかなという気持ちで見ている。この文脈でいうと、これで良いのかもしれないが、通常はデジタルというよりは、ICTの活用と書くのではないか。教育データと言ったときは、体験や活動の様子の記録をとってとか、子どもたちの活動の振り返りの、テキストデータを全部分析して、その上で次の授業に生かすということもしている。他自治体では、紙のノートを大事にして、ノートに書いたら、カシッと写真に撮ってデジタルノートに貼って、教員はノートを回収しなくても、全員の学びの振り返りをちゃんと評価できるというような、色々なことをしているから、それを厳密に書くのは非常に難しいと思う。だから、そこは大まかでいいかなと思って私はここでは問題提起しないでおこうかと思っている。

言うとしたら、教育データの活用による授業改善と書いたり、児童生徒支援と書いたりすれば良いのかなと思ったくらいだった。

(委員)

14 ページに記載の「デジタル」はおそらく、一般的にはテクノロジーとか、ICTと表現されるようなものだと思うが、ここはそのまま良いのだろうか。「デジタル」は、もともと、離散量や0/1のような意味の語句である。

(委員)

前後を見ていくと、デジタルということがここに出てきているが、他はICTと書いてあるので、ICTの活用に統一しても良いかなと思う。

(委員)

この文章には、単にICTに置き換わっていくことじゃないですよというメッセージが込められていると思った。委員の発言にあった、「テクノロジーの活用とともに」につなげて不可欠というとか、0/1のようなイメージがあるから、「対面による授業や体験活動の充実も不可欠である」とすると、当然これまでどおりのものを行うが、ICTが入ってきたからといってそこが置き換わるのではなくて、さらに日頃のいわゆる対面授業とか、体験活動の充実を図りながら、という形にさせていただくと置き換わるようなイメージが少し薄らぐ、対面による授業体験活動はこれまでやってきたことなので、それをさらに充実させていく。それにデジタル環境をうまく最適に組み合わせられていくから、これを例えば体験活動の充実ということも入れていただいても良いのではないかな。

おそらくメッセージがすごくあると拝察した。これまでをさらに良くしていく1つのきっかけになるというところだと思う。

(委員長)

前者と後者が別々で、どちらがどちらにするかとか、そういうことであったりした過去もあったが、これを両方合わせ技にしながらこれから使っていかななくてはいけなくなっている、つまり、体験活動の事前準備の中にICTが入ってきたりとか、そういう組み合わせ的なことがどんどん広がっているということが、何かニュアンスとして入る形の表現にした方がより新しい時代向けになるのではないかという、先生方のご指摘かと思う。

(委員)

先ほどの探究の話から、今後の方向性のところに探究的要素をやはり入れるべきではないかと思う。ではここで何を入れたら「探究」という意味あいになるのかとなったときに、単純にそのまま「探究的」という言葉を入れることも1つあるかもしれない。ただ、実はここで書かれているようなコンセプトというのはいずれぶん昔から言われている問題解決の話である。

例えば、私は探究的とか探究学習の専門なので、この表現や内容に関連して一つ言えることは、学習者が「自ら問いを持つ」とか「問いを設定する」といったことと、問題解決型学習や問題解決と言われているものは、大きく違うところになってくるかと思う。

従来の問題解決型学習や問題解決は、自律的な学習者の話と比較的近い語句が並ぶ説明もあって、問題解決の見通しや計画を立てるということをする。これに加えて、目標発見や目標設計などといったことも注目されている。しかし、「探究」を構成する要素を考慮すると、「子どもを主体とした学びを通して」の後ろ側に並べる語句としては、総合的な学習の時間だけでなく教科の学習においても、「自ら問いを立てる」とか、「問いを持って学びを進める」という学びのあり方がこれから求められており、探究学習の基盤的な要素になってくる。学習事項が「わかる、わからない」という与えられたことの理解や知識・技能の習得の話ではなく、そういう疑問や問いを持って、学習に望んでいるかということが重要になってくる。

確認はしていないが、こうした学びに関する態度のような項目は全国学力・学習状況調査の中に、総合的な学習の時間に関心がある人が注目する項目もあるのではないかと思う。これは、評価指標のところで参考になるものもあるかもしれないということをお伝えしておく。

(委員長)

探究の言葉を入れ込むということに限ることなく、そうしたニュアンスがこの文面の中には反映されていく方が良いというご意見というふうに伺ったがそれで良いか。

(委員)

はい。

(委員)

非常に大事なご指摘だと思って聞いていた。実は、探究という言葉が多義的なので、現場に落ちてきたときに、教師が課題を提示する形をとっていたとしても「探究的に学んでいる」と言ったりしてしまうから、問題発見という言葉をしちゃんと位置付けた方が良いのではないかと思いながら聞いていた。というのも、以前の学習

指導要領では、すべての学習の基盤となる力として、問題解決能力と書いてあったのが、新学習指導では「問題発見・解決能力」となっており、問題発見を明示した。問題発見の言葉はどこかに入れたらどうか。

（事務局）

ここは私たちも非常に重要だと思っている。例えば、17 ページ施策 1 の「1 今後の方向性」のあたりもそういったニュアンスで書かせてもらっている。

それから、10 ページの「自ら学ぶ」という場面でも改めて書かせてもらっていて、私達として、例えば自由進度学習とか、あるいは探究的な学習とかいうことをこの計画に具体的に記載すると、教員がそちらに流されていくのではないかと思った。あくまでも子どもたちが自分で問題を発見し、問いを立て、見通しを立てて計画しながら、追求して、そして、自ら学び取っていくという、そういうところを大事にしたいと思っている。どういった言葉を使うかというのは検討したい。

（委員）

それはそれで結構だと思う。

おそらく今皆さんが議論している中で出たように、指標の中に今までそれが入ってなかったから、そこが入ってくれば良いのかなと思っていたから、そこが入っているのであれば今のお話で大丈夫だなと思って聞いていた。

（委員長）

次に施策 2 の豊かな心の育成のところになるが、ここで何かご意見があれば。

（委員）

総論部分とここの部分がどう繋がるかという話を考えると、例えばこの施策 2 のところで、しっかり共通の視点であるウェルビーイングとの絡みというのを書き込まないと、うまく繋がらないのではないかと思うところ。

だから、施策の今後の方向性の中にしっかりそのキーワードを入れ込むと繋がりが分かりやすいかと思う。

（委員長）

方向性とかにそのあたりがしっかり反映できる形にして、それぞれの取組みに落とし込むということだと理解した。

（委員）

以前も発言したが、やはり子どもたちに郷土愛を育んでいただけるようにという主旨を盛り込んでいただきたい。例えば、豊かな体験活動のところ、自然体験や職業体験、地域や郷土という言葉に少し含まれているかもしれないが、さらに、「地域の歴史文化や郷土の」というような形で続けて、最後に、「郷土愛を育んでいきます」といった文言を入れると、福岡で育った子どもたちが福岡でしっかり活躍できるというニュアンスが出るのかなと思った。

（委員長）

豊かな体験活動のあたりのところにしっかり郷土愛に繋がるような表現があった

方が良いではないかというご意見をいただいた。

(委員)

同じところで、「人・もの・ことを活用した」という文章について、この言葉は、下の取組みの、情報モラル教育の推進の中で「情報への関わり方」と書かれているところとは意味合いが違うもので、豊かな体験活動に記載されている内容は、「活用した」というよりどちらかというと「関わる」ということなのではないかと思う。活用するというのは、言い方を変えると利用するであったり、目的のために巧詐するといったようなものが活用の意味だと思う。

言いたいことはわかるが、学習活動としても、人や、郷土の歴史と言ったことなどに深く関わって行って、それを学ぶ、というふうに言うことだと思う。活用したという表現にすると、機械的な冷たい印象で、非常に目立つように思う。

この活用したという表現の仕方に関しては、検討していただけたら良いのではないかな。

(事務局)

体験活動の部分で、先ほどの郷土の歴史や文化等々、それについてはやはり郷土の人・もの・ことという中身が入っているというふうに考えている。

それからご指摘の部分は、我々も「関わる」ということは大事だなと思っていて、活用よりも「関わる」の方が主体的な要素が出るし、共同性も出るから、言葉は検討していきたいと思っている。

(委員長)

ゲストティーチャーに来ていただくとかだけのことでなく、もっと深くというところになろうかと思う。

施策2の方向性の中でいうと、全体的なところで、キャリア発達の促進というニュアンスをいろんなところに入れ込んだ方がいいのではないかという話が前回あった。そこを考えると、1今後の方向性のところで、自己肯定感の記載はあるが、自己理解であったり、他者理解であったりが必要ではないか。他者への思いやりの前段階として、相手がどんな気持ちだろうかというふうに、相手のことを慮ったり考えたりする力もやはり必要で、それはたくさんの兄弟の中で育っていればひょっとしたらじわっと身につくかもしれないが、今日そのような家庭環境にない子どもも多いので、そう考えると、この思いやりであったり、いわゆる自己肯定感とかいうような大きく発展的なところに行く、その1つ前のところで、自己理解や、他者理解など、そうしたことを押さえた上で、広げていくという方がより良いのではないかなと思う。それを入れることで非認知能力とかそうしたこととの繋がりも良くなるのではないかな。

また、道徳教育とか道徳関係のところの表現があるが、例えば特別活動など、そうした用語は、あえてこれはこの中に入れないということか。高校でのロングホームルームであったり、中学校までだと学級活動であったりが表現としてはこの中に入っていないが、取り上げる形にしない方向性でまとめられるのか。

(事務局)

特別活動の中で、などそこまで具体は書いていない状況である。

(委員長)

道徳教育は特別の教科道徳であり、それがここには入っているなと思いながら、そのあたりの学級活動とかの中で、この違いみたいなものはどういうところなのだろうか。例えば自分の専門が心理教育であったりそうしたところになるから、それを学級活動の中であったり朝の会などでやっていくことになるが、それが学校教育活動全体を通してというふうに大きく示していただく中に含まれているのも重々承知の上ではあるが、いろいろな場面が例示に上がっていても良いのではないかなと思った。

(委員)

内容的にはこれで結構だと思っているが、非常に些末な表現の部分でお伝えしたい。情報モラル教育の推進のところで、「児童生徒の発達～情報への関わり方の指導を行い」という「指導」という言葉が、本当はいろいろな意味が広くあるのは理解しているが、どちらかというと、教え込むとか、ああしなさいこうしなさいというように見えなくもないので、「関わり方に関する学習を行い」とか、そういう子ども自身が考えてあり方を自分で見直していくというようなニュアンスが伝わるようにしてはどうかと思う。

(委員長)

いじめに関しては、早期発見とか早期対応ということもあるが、同時に、いじめの生まれにくい集団づくりをするというような、未然防止以前のところの予防教育というのも重視されていることを考えると、何か予防教育みたいな表現が、その中に入ると、もう1つ広く、全体に向けた指導援助の段階から言及できると思う。

(委員)

先ほどの委員長の特別活動の話にも少し絡むのだが、施策それぞれのページは、最初に今後の方向性がボンとあって、あとその下に細かい取組みがパラパラと並んでいるというイメージがある。

だから、大きい方向性を受けながら、学校全体でどんな活動をしっかり取り組んでいくかという中段があって、具体的な取組みが並んでいると、もう少しわかりやすいのかなと思った。

(委員)

今のお話の予防教育という視点で、本校では、子どもたちが小さい問題を自分たちで解決できるような教師の声掛けを行うことを意識している。したがって豊かな心に入るかどうかはわからないが、子どものコミュニケーション力とか対応力とか大人が主導するのではなく、子どもが小さいときから、学校教育全体で他者との関わりとかそういうのを合わせてやっていくのが良いのではないかなと思っていた。

(委員長)

子どもたちの集団の効力感のような、僕らなら大丈夫だと思える力をつけるとい

うようなことが、ニュアンスとして表現されていると良いということか。

(委員)

うちはそれで自立学習をしていて生徒に考えさせようとしているが、そうするとよく、集団規律とか、集団を育てると言われる。

そう言うと、圧がかかってしまって、何か集団に目がいってしまう。みんながしないといけないというような、同調圧力ばかりあって、やはり一人ひとりが考えて、この場面ではこんなことができるとか、トラブルがあつたら、話せばわかるんだっていう風土とか、安心安全な環境を保護するようにしていくことが重要というのを最近感じているところ。

(委員長)

それぞれの個の育みも、両方をしっかり連動させながらやっていく必要があるよというそんなところかと思う。

では施策2の方は大体お聞きできたかと思うので、施策3健やかな体の育成のところ、ご意見があれば。

委員が先ほどおっしゃった、施策の1つ1つの各論の部分と、1の全体の方向性前回の今後の方向性の間にもう少しつながりがあつた方が良いというのは、ここではどう思われるか。

(委員)

ここも今後の方向性でこう書かれていたら、健康維持する管理するための学校の取組みと保健体育も絡むのだろうが、体力をどうつけるかというような取り組みが、大まとまりでありながら、細かな項目としてこう並ぶものではないか。ご指摘のとおりつながりが必要かなと思った。

(委員長)

そういう意味でいうと、段落を補足するような感じの加筆があつても良いかなというご意見のよう。

(委員)

施策1～3に入るときに、この1～3がどう出てきたのか繋がりがよくわからない。おそらく基本方針に子どもを主体とした学びの推進があつて、その下に3つがぶら下がっているという位置付けだが、その説明がどこにもされていない。

だから今、17ページを見ているが、各施策の内容の頭に本当はその基本方針が書かれていて、それをどのように受けて施策の3つが並んでいるのかという説明がないと、私も戸惑うから他の人はなぜ3つ並んでいるのか疑問に思うかなと思ったところ。おそらく他の基本方針と施策5についても、少し丁寧なつながりが必要かなと考えた。

(委員長)

そうすると、16ページのこの図の説明を1つ入れた上で、施策1から始めていくと良いだろうか。

(委員)

それかそれぞれの施策のまとまりの頭で説明しておくというのも1つかと思う。

(委員長)

今後の方向性の手前に位置づけみたいなのを足してくるということか。

(委員)

そう。

(委員長)

これはどちらがより収まりが良いかどうかご検討いただければ。

16 ページが見取り図という項目になっていると思うが、その見取り図とそのあとの各論との繋がり、どう繋いでとらえたら良いかというのを、アシストするようなものが入ってくれば良いということだと理解した。

(委員)

今のところで質問がある。

16 ページのところ、基本方針との関係や、各施策の内容のところ、今後の方向性と主な取組みと、分けて書かれているところについて、今日最初に指標設定の方向性やアウトプットとアウトカムの違いについてご説明いただいたかと思うが、これの構造は、今後の方向性というのはアウトカムとかインパクトの目指すところを示している。そのためにどんなことをしているのかというのが主な取組みであり、アウトプットとしてやろうとしていることだという理解で合っているか。

(事務局)

各施策の構成としてはおっしゃるとおりで、まず1で今後の方向性として、施策の上位に基本方針というのもあり、そこでも大きな方針、進め方みたいなものを書いているので多少重複する部分もあるが、この施策部分での大きな方向性を書いていき、そのための現時点で想定している主な取組みを書いている。ただ、取組みといいながらも、個別の事業というつもりではなく、まさに取組みをやっていくという考えで、こういう構成にしている。

(委員)

16 ページの体系図で言うと基本方針と施策の関係、17 ページで言うと、施策の中での方向性と取組みの関係というのが、アウトカムとアウトプットの関係にあるとするというのが揃っているというのはとても良いことだと思うが、各取組みの中で、アウトプットに相当するようなものを通して具体的にこういうことを育成しますという書かれ方をしているとすっきりするのだが、取組みによって書き方がバラバラになっている。こういう子どもを育てるんだ、というアウトカムに近い、「育成します」「何々をします」「こういう子どもを育てます」というところばかりが書かれているものと、あまり書かれていないところもあって、構造上バラバラになっているので、これで良いのか確認しないといけない状況になっていると思った。

例えば、19 ページで言うと、人権教育のところは、「計画に基づき、学校での人

権教育の組織的・計画的な取組みや、教員の人権意識及び指導力の向上を図ります。」となっていて、基づくというのがどういうことなのかという説明がない。ここを目指すのだが、基づいてどうするのかというところは書かれていない。

教師が何をすることで、子どもの力を育成しますというふうに書かれていれば、その主語は誰なのかとか、誰がすることなのかといったものが、わかるかと思うのだが、それがないように思う。そこが意識的に書けるものと書けないものがあるとしても、文章構造上、変えてもらうことが必要なのかなと思う。

(委員長)

表現上の統一性というところを、全体を俯瞰してでき上がった時点で見いただくこともお願いできればと思う。

(事務局)

書き方の統一感がないということだと思うので、中身を変えることができない部分もあるかもしれないが、もう一度チェックしたい。

(委員長)

次に、施策4 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂のところでご意見を願います。

(委員)

この中で、不登校児童生徒の支援について福岡市は大変手厚くやっていただいて、それについてはこのとおりで結構だと思うが、実は不登校になっている子どもの居場所はあるのだが、学校に戻りたいと内心思っている子どもたちに対する支援や、不登校の子どもがいる保護者に対する支援などといったものが、これから求められるのかなと考えている。

他の自治体でもメタバースを使った不登校支援をやっているが、それにより居場所は増えるものの、不登校を解消して学校に行って学びたいと内心思っている子どもの支援にはならないという話をしている。

したがってこのところにそういうニュアンスで、学校に戻ることに對する子どもについての支援もあるが、それ以上に保護者を支援しないと、それが理由で離職する方も結構いる状況もあるし、そのあたりご配慮ご検討いただければと思う。

(事務局)

保護者支援については、福岡市の方で、NPOと共同で保護者の方を対象としたセミナーなど、保護者の受け皿を作るような取組みを行っている。この中には、そういう文言をして入れていないため、何か保護者を支援することの重要性、場を持つということを考えてみたいと思う。

(委員)

それで良いと思う。あとは居場所を作るだけでなく、子どもが学校に戻れるように支援するみたいな文言もあると良いのかなと思った。

(事務局)

子どもたちの学校復帰を支援する取り組みもやっていることをどこかニュアンスとして入れることができないか検討する。

(委員)

もちろん実際にやっているのは存じ上げているが、願います。

(委員長)

そこに関連して、教育支援教室、いわゆるステップルームとかも、すでに存在しているが、計画に記載がないと市民の方がこの計画を見たときに全然見えてこないと思うから、ここに入れ込んでいた方が良いのではないか。

心の健康観察に関しては、県内でもICTとかを活用したような取り組みに向けて動いているところもあるので、ここの中に書き込むかどうか別にして、ご検討いただければと思う。

他にご意見がなければ、施策5 教員の確保及び資質・能力の向上についてご意見をお伺いする。

(委員)

教育DXとの絡みで質問させていただきたい。

国の方で話題になっていることだが、教員端末を1台化したり、回線を校務系と学習系を分離するのではなく、1回線にして強固なロールベースアクセスコントロールによって、セキュリティ担保しながらどこからでも仕事ができるというような、ロケーションフリー化ということも視野に入れたりしている。そうした方が、先ほどの教員の働き方改革とも絡め、ワークライフバランスを改善して、教員も仕事しやすいということも絡むので、文言として入っても良いのかと思うがそのあたりについてはいかがだろうか。

(事務局)

前回も次世代型校務支援システムについてご意見をいただき、27ページの業務効率化や適正化の方に寄与する部分が大いなのかなということで、働き方改革の推進の取り組みの1つとして、入れているところ。

(委員)

このクラウド型校務支援システムの導入等によるロケーションフリー化、ワークライフバランスの改善みたいな言葉が入れば良いかと思っている。

(事務局)

クラウド型校務支援システムの言葉を入れてみたものの、言葉の意味がわからないかなと思い、脚注を入れようかと考えているので、その中で工夫させていただきたい。

(委員)

結構だと思う。

(委員長)

施策6も施策5と内容が近いので、あわせて5、6セットで意見をいただきたいと思う。

(委員)

私は教育ダッシュボードと言われて意味が分かるが、一般市民の方は絶対わからないと思うので、「多様な教育情報を」とか「教育データを分析、可視化した教育ダッシュボード等を活用して」というようにするとわかりやすいかと思う。

(事務局)

こちらもちょうと本文の中もしくは脚注で説明を入れたいと思う。

(委員)

脚注でいいと思う。

(委員)

細かい話になるが、具体的に言うと25ページの資質・能力の向上の主な取組みのところで、「一人ひとりが意欲をもって主体的に学び続けることができる環境づくりに取り組みます」という文面があるが、今後の方向性のところにも、教育の専門家としての資質・能力を向上するということが書いてある。

なぜ一人ひとりが意欲を持って主体的に学んでいかなきゃいけないのかというと、先ほどの専門性を高めるためになると思うが、今後の学校を考えていったときに、この専門性というものも学校の先生方の中で多様性が出てくると思う。先生方もそれぞれ自分の強みを生かしてその専門性を高めていく。教科担任制とかが分かりやすいと思うが、その専門性というのは獲得するものではなく高めていくもの、しかも自律的に学んでいく、ということがある種専門家の定義だと思うので、専門家というのは資格をとって終わりではなく、学び続ける人だと位置付けてアップデートしていくという意味なので、今後の学校に教員が置かれている状況を踏まえると、こういった意味が必要でもあるし、こうなっていくだろうということが考えられると思う。

こうしたことが少しでも盛り込めるように、専門性を単に得るんじゃなくて、一人ひとりが意欲を持って専門性を高めるためにとか、高めていく、向上させていくという文言を入れることができないかなと思う。獲得して終わりというようになってしまうと、イメージ的に齟齬があるところでもあるので、そのあたりを入れていただくことを検討していただければと思う。

(事務局)

今ご意見いただいたのは、主な取組みの2つ目の資質・能力に向けた研修の充実について、冒頭が、「求められる資質・能力を身に付けることができるよう」となっているので、そうではなく専門性を高める部分も必要じゃないかっていうこと、専門性を高めるという言葉はどこかに入れた方が良いというご意見だと理解してよいか。

(委員)

基本的には専門家とは自らの専門性というのは自ら高めるものである。

先ほど言った、一人ひとりが意欲を持って自らの専門性を高めるということは、周りが研修を組んで高めるということではない。学び続ける専門家というものは、自分の専門性を自分で高める人を指すので、それが誤解のないように、研修で高めるというふうにならないでほしいという主旨。

(事務局)

理解した。ありがとうございます。

(委員長)

そこに関連しての意見だが、育成指標にしても、複線化しているというべきなのか、いわゆるトップリーダーとして学校マネジメントしていくというようなものもあれば、同時にどちらかというと授業の匠であるとか、教育相談コーディネーターのようなお立場で、シニアコーディネーターとかで良いとするとか、それぞれの何かご自分の専門性に出会えるとか、気づくとか、それが高まっていることを実感できるというのは先生方のやりがいとか働きがいというところに繋がると思うので、多様な専門性というのが、1つ前のところにも表現としてあることもあり、それがこの研修の充実の取組みの中にも多様な専門性に出会って高めていくようなことがニュアンスとして入ってくるとより良いのかなと思ったのでご検討いただけたらと思う。

(委員)

環境づくりというのが施策5でも施策6でも大事になってくると考えているが、施策5と施策6をどう切り分けるのかが、今一つよくわからない。施策5の方が教員としての資質・能力になってくると、最後のメンタルヘルスはどちらかというと施策の6の方に含まれるのではないかと思ったりもするのだが、施策の切り分け方を教えてほしい。

(事務局)

切り分けの前提から説明すると、施策5の方では教員の個に関わる部分に関して取り上げ、施策6については環境整備的な部分をメインにと考えている。おっしゃるように、メンタルヘルスの部分に関しては、個の問題であるとともに、どういった環境整備をしていくかというのも非常に重要な問題であるため、答えになっていないが、そういう悩みの中で整理したもの。

(委員)

ありがとうございます。

(委員長)

スパッと切り分けが難しいところではあるので、詰めてもらえたらと思う。

(委員)

今のメンタルヘルスのところにも少し関連して、少し細かいところにはなるのだが、主な取組みのところに、「メンタルヘルス対策及びコンプライアンス向上に向

けた取組み」と書いてあるが、教職員の休職率は全国的にも非常に多く、福岡市でも多いと思っている。また、今全市的に不祥事防止の取組みというのを大きな取組みとしてやっていると思うが、この主な取組みの表記として、これらが一緒に書かれるものなのか。それぞれを分けて、しっかりと具体的なところで書いてもらった方がよりわかりやすく、良いのではないかと思った。

(委員長)

ここは、1つ1つ分けて書いた方が、内容としては良いかなと思うので、ご検討をお願いします。

27 ページのチーム学校の推進の中に、教職員の中に入っているから書かないというふうに伺ってはいたが、教育相談コーディネーターも挙げていただいても良いかなというふうに思ったので、ご検討いただければ。

では、29、30 ページのところ、施策7と8を合わせて、何か意見があればご発言を。

(委員)

環境の整備ということについて先ほど発言させてもらったが、建物であったり教室の広さであったり、物理的な環境以外のものは含めないという方針と理解するが、より大事なものは、子どもを取り巻く諸々の居心地が良い学校をどう作るかということかなと思ったが、いかがか。

(事務局)

基本的にはおっしゃるとおり、施策7の部分というのは、物理的な環境というものを考えている。学校施設の話と、学校規模。大規模校とか小規模校をどうしていくのかということと、安全確保の面で特に登下校の安全確保について触れている。それから、当然、学びの形が変わっていく中で、それによりフィットしたような場となるような環境づくりという言葉は、主な取組みの改修・建替えのところで触れている。

ただ、おっしゃるような子どもにとって居心地がいいとか、そういった意味での環境というのはここではなくて、他の色々な施策、例えば、多様な教育ニーズへの対応や、心の育成などで、そういった意味での環境というのは作っていくものかなと考えて整理しているところ。

(委員)

お考え理解した。

色んなところに散りばめられている、その子どもにとってのより良い環境をどう考えていくのか、そんな視点でもう一度見直してもらえたら嬉しい。

(委員長)

子どもが学ぶ環境としての物理的環境は施策7にあるが、働きやすい職場である学校としてのという物理的環境のところは、この中には入らない方が良いか。

(事務局)

学校の先生が働きやすいハード的な環境と言う意味で、もちろん仕事のしやすい職員室のレイアウトとかそういうのはあるのかもしれないが、計画への記載には至っていないところ。

(委員長)

プレハブなどの話が先ほど早い段階で委員から出ていたが、子どもにとって居心地が良いものは、先生方にとっても良いのだろうというふうに思ったところだった。

(事務局)

補足で、プレハブということであれば、児童生徒数増への対応として、プレハブでやっているところもあり、まさに主な取組み2つ目の丸の学校規模適正化に含まれているので、より今後の適正化、プレハブ等の解消に取り組んでいきたいというふうに、記載をしている。

(委員長)

では施策7、8のところで他にご意見はないか。

(委員)

内容には問題ないと思っているが、指標のところで、「携帯電話やスマートフォン、コンピュータ、ゲーム機などの使い方について、家族と約束を決めて、それを守っている」というのがるが、先ほど施策2で情報モラル教育の充実っていうのが、今回新たに入ったので、そちらの項目に移したほうが良いのではないかと思った。ここにその家族との関係に関する家庭教育に関する指標を別途入れるとかの方が自然かなと。

それから1つ質問だが、放課後等の遊び場づくり事業であるわいわい広場は福岡市ならではの非常にユニークなすばらしい取組みだと思うのだが、あれは教育委員会ではないのか。

(事務局)

教育委員会で所管している。国の事業でいうところの放課後子ども教室を、福岡市では通称わいわい広場という名前でやっているところ。

また、ご指摘いただきました指標の方は、おっしゃるとおり施策2に情報モラル教育の話を入れたので、そちらとの関連もかなり深いところではあるが、一方で家庭でもそこをしっかりとやっていただきたいということでここに入れているところ。

(委員長)

これ以降は資料になるが、何かご意見があれば、簡単をお願いしたい。

この中身のところは、どんどん加えて行ってもらうことになると思うが、大きな方向性に関わるご意見はなかったと理解している。

では、全体を通して何か言い洩らしなどがあればご発言を。

(委員)

指標の上限の話。ほとんどの設問で、評価の説明が、4段階評価の設問になって

いて、1と2を合わせるような形で、高いパーセンテージを示しているが、これは1と2の割合が変わる可能性があるため、見た目の現状値と目標値が同じであっても、1が高まって2が下がった場合や、逆もあり得る。例えば1だけに絞るなどすると比較しやすい。

(委員長)

実態把握というか定時調査の行い方について少し検討いただければと思う。

(事務局)

おっしゃるとおり、肯定的回答というときは「そう思う」と、「どちらかとそう思う」の合計を使っている例が多いということで今回もそうしている。

唯一の例外として、26ページの教員のコンプライアンスの部分の服務義務についての理解については、限定して取るような形をとっている。

他の項目についても、「そう思う」だけに限定するのか、できるのかは検討するが、このままになる可能性もあるので、ご了承いただきたい。

(委員長)

精緻に分析をしなければいけないところに関しては少しまた掘り下げてみて、必要に応じてデータを活用していくということか。

(事務局)

もちろん内部的には、そこを区分したデータがあるので、状況の把握を整理する場合は、細かく区分したもので見ていきたいと思っている。

(委員)

施策を細かく見たときに、9ページから14ページをどう位置づけるのか。他の委員の質問にも重なるが、11ページからの基本方針について5つ方針を確認されているが、ここをもう少し踏み込んで書くのか、このままにしておいて施策以降を修正するのかというのは、大きなところだと思っている。

ただ、基本方針のボリュームを増やして、概要を書くのであれば、施策以降はそのままで良いのかなと思うし、施策に書き足すのであれば、逆に基本方針がこれで良いのかというところが出てくるかと思うので、9ページからあわせてご検討いただきたい。

どちらが良いのかはわからないが、11ページから13ページまでを整えた方が、そこを見ればわかるから、基本方針を読む側としては、ここである程度、もう少しアウトカムであったり、アウトプットのことがわかった方が、興味を持てただけののかなと思ったところ。

14ページも少し気になり始めたのだが、先ほど議論があったかもしれないが、共通の視点でwell-beingの指標が入っているが、これだけに指標がついている。視点なのであれば、いらないのかなと思った。逆に、well-beingに入れるのであれば、DXの方の指標も必要なのではないのかというふうに思った。

それから、施策8が気になった。先ほど他の委員から、1つ目の指標はなくて良いのではないかという話があった、DXの関係になるのかわからないが、例えば学校から今配信ですね。情報提供を家庭にしていると思うが、私は福岡市に在住して

おり、ホームページもかなり充実していてすぐ見たりできるし、スクリーンもPDFがスムーズに見えて、タイムラグなく情報提供をいただいている、すごく助かっている。

おそらく地域連携とか家庭でも、おそらくコミュニティ・スクールなどを運営していくと、問題点とか情報発信について議論がされることもあると思う。そういった部分について、もうすでにされている部分とか、これからどうやって発信していったって、地域や保護者を巻き込んでいくのかということは多分DXと相性も良いですし、学校がもっと発信していったって、信頼関係を作っていく、そういった情報提供が非常に大事というところがあります。すでに実際にされていることもあるので、施策8にDXの部分、地域や保護者への情報発信をデジタルとか、ICTを活用してやっているみたいなことが、書けそうかなと思った。

(事務局)

たくさんいただいたご意見を踏まえて検討させていただく。Well-beingのところの指標のところだけで言うと、元々well-beingだけの指標というよりも、全般を測るものとして、子どもが学校に行くのが楽しいと思うのは大事かなということと、先生たちが、日々の仕事で喜びや楽しみを感じてもらっているというのは、全体に通じるものかなと思い、施策体系図のところに置いていたのだが、well-beingとも言えるかなということで、ここに持ってきたというところもあるので、おさまりが良いところを考えたい。

(委員長)

他にご意見が無ければ本日の協議の方ここまでにさせていただきたい。
予定していた議事は以上である。